

挑む!

女王アリの研究者

後藤 彩子さん(37)

## 長寿の秘密 数万匹飼い迫る



神奈川県出身。東京都立大を卒業し、東京大大学院時代にアリ研究を開始。愛媛大大学院で博士後期課程修了。2014年から甲南大理工学部講師。

女王アリの寿命は長い。働きアリは何年も生きられないとみられているのに、ほとんどの種で10年以上。29年との記録もある。その間、巣穴で卵を産み続け、交尾は生涯のごく初期に一度きり。精子を生きたままため込む不思議。女王は、夏から初秋のある日、生

まれ育った巣から一斉に飛び立ち、コンピニなどの明かりに群がる。そこを一網打尽にする。「無事捕まえ終わるまで、夏は気持ち落ち着きません」子ども頃から「アリ好き」だった。自宅の近所で行列をながめる日々。自然と、進路はアリ研究に向かった。先人の研究は、アリの社会性に関するものが多い。特に女王は、大量飼育に手間がかかることもあって、遺伝子レベルで体の機能を調べる研究はほとんど手つかずの状態だった。そこで、受精囊だけでよく働く遺伝子探しに2011年から挑み、最先端の遺伝子解析で12個を特定。今年7月に論文発表にこぎ着けた。これらが精子の驚異的な長生きにどう関わっているのか。「秘密のドアの取っ手に、ようやく手をかけた気持ちです」

文・阿部彰芳 写真・植谷綾二

記者から

研究ライバルは「いない」そうです。それぐらい手つかずの分野。突き進んでもらいたい。